

認知症予防の日 記念式典



質問に答える浦上理事長(中央)と徳光さん(左)=12日、東京都内(日本認知症予防学会提供)

「正しく理解を」
徳光さんら訴え
オンラインで講演、トーク
日本認知症予防学会は12
日「認知症予防の日」(6
月14日)の記念式典を東京
都内の会場とオンラインで
開いた。同学会の浦上克哉

理事長(鳥取大医学部認知
症予防学教授)の講演や、
認知症予防大使のフリーア
ナウンサー徳光和夫さんの
トークライブなどを通し、
認知症予防の重要性と正し
い理解を呼びかけた。
講演で浦上理事長は、認
知症高齢者数が700万人

になると推計される202
5年を控え、「認知症予防
は日本がリーダーシップを
取るべき最重要課題。発症
予防から早期発見・治療、
進行防止までシームレスな
取り組みを」と訴えた。

徳光さんは、認知症の薬
を服薬している妻の飲み忘
れを防ぐため、自身も一緒
に持病の薬をのんでいるエ
ピソードを披露。同じ話を
繰り返す妻に「いろいろな
角度から質問して話を引き
出すことで、聞く側も質問
者としての心地よさを感じ
る」と会話を楽しむコツを
紹介した。

認知症予防の日は、アル
ツハイマー型認知症を初め
て症例報告したアルツハイ
マー博士の誕生日にちな
み、17年に同学会が制定し
た。(今井理恵子)